

科目名 (科目番号)	血液検査学Ⅱ (時間割参照)	教員名 山口孝一	学科等	臨床検査	選択	履修年次	4
	曜日・時限等		時間割表参照	単位数	1		
	授業形態		講義	オフィスアワー	月曜日5限		
授業概要	臨床血液学、血液検査学、そして臨地実習で習得した血液検査に関する知識と技術により、検体採取から検査結果報告までの一連の流れを包括的に理解する。またデータを報告するだけでなく、血液検査結果の評価ができる能力を習得する。加えて血液検査結果と疾患関連性より、診断に必要な検査を取捨選択できる能力を習得する。						
目的・目標	目的:臨床検査技師として血液検査を行う際にデータを報告するだけでなく、血液検査結果の評価ができる能力を習得し、血液検査結果と血液疾患関連性を理解する。 目標:①血液検査の一連の流れを包括的に理解し、正確なデータの報告と評価ができる。 ②血液検査結果と疾患関連を理解し、診断に必要な検査を取捨選択できる。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	血液検査と赤血球系疾患 - 1	到達目標:赤血球系の基準範囲、赤血球形態の異常を理解する。 学習内容:赤血球系の基準範囲、赤血球形態の異常を包括的に学修する。				
	2	血液検査と赤血球系疾患 - 2	到達目標:貧血、赤血球増加症を理解する。 学習内容:貧血、赤血球増加症を包括的に学修する。				
	3	血液検査と白血球系疾患	到達目標:白血球系の基準範囲、白血球形態・機能の異常を理解する。 学習内容:白血球系の基準範囲、白血球形態・機能の異常を包括的に学修する。				
	4	血液検査と造血器の疾患	到達目標:造血器腫瘍の分類と病態を理解する。 学習内容:造血器腫瘍の分類と病態を包括的に学修する。				
	5	血液検査と出血性素因	到達目標:血小板異常による出血性素因を理解する。 学習内容:血小板異常による出血性素因を包括的に学修する。				
	6	血液検査と凝固・線溶因子の異常	到達目標:凝固因子欠損、線溶亢進を理解する。 学習内容:凝固因子欠損、線溶亢進を包括的に学修する。				
	7	血液検査と血管の異常	到達目標:血管の異常(血管性紫斑病)を理解する。 学習内容:血管の異常(血管性紫斑病)を包括的に学修する。				
	8	血液検査と血栓性素因	到達目標:凝固亢進による血栓性素因を理解する。 学習内容:凝固亢進による血栓性素因を包括的に学修する。				
成績評価の方法・基準	期末試験(100%)(対面・オンライン共通)						
教科書	最新 臨床検査学講座「血液検査学」		奈良信雄、他 著		医歯薬出版		
参考図書	血液検査技術教本		監修:一般社団法人日本臨床衛生検査技師会		丸善出版		
教員からのメッセージ	昨年度の授業評価アンケート結果に基づく改善を施します。 医療提供施設で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。						